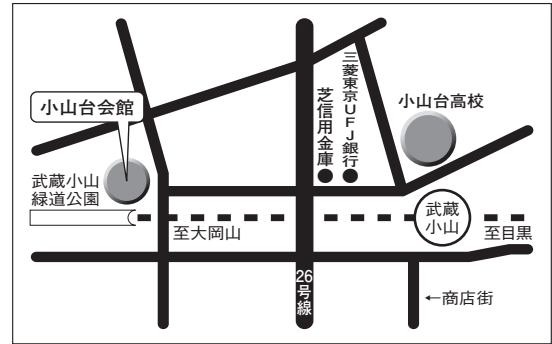


第34号

2010年9月30日 発行

発行所 財団法人小山台
〒142-0062 東京都品川区小山4-11-12
TEL 03(5721)6171 FAX 03(5721)6173
発行人 理事長 大澤佳雄
編集人 常勤理事 杉山 元

財団法人小山台 会報



駅が地下になり、急行も停車しず。

英国ボーンマス語学研修派遣 に同行して

監事 飯塚 洸子

財団の監事として4年、この度、前半の10日間だけでしたが派遣生に同行する機会を頂きました。

私の日常からは接点の少ない年代の25名には正直言って、当初は多少戸惑いもありましたが、到着時やや不安げだった彼らの顔が日に日に逞しく、自信に満ちていく姿を見て、これほどまでとは想像しなかっただけに、この順応性に驚かされ、これが若者の特権かと羨ましくさえ感じたものです。

事前研修の成果もあり、互いに協力しながら、コインランドリーに一人で行き、近所の店で昼食を買い、ホームステイ先のミセスの誕生パーティーにも誘われたりと、英国の家庭の生活の中から様々なものを学びながら全員が成長していく過程が感じられました。帰国後は当時とは比べものにならないほどの手ごたえと自信を得ている事でしょう。そんな彼らに接したことが私自身にも得難い体験となりました。

同行により、この国際交流事業は想像以上に成果のある、財団にとって意義の高い事業であることも再認識しました。私自身は、海外での語学研修は「出来たら高校2年生以上が良いのでは」と日頃思っていたのですが、今回の同行で、「いや、むしろ高校1年生で行くのが良いのだ」と実感した次第です。

高1の参加するコースの目的は語学の上達ではなく、海外の同世代の仲間と如何に分かちあひ、他国の文化等に興味を持ち、また、ホームステイにより

英国と言う国の家族、住居、食べ物、生活の姿、考え方などをそれなりに感じる事が将来の彼らの人生に少なからず良い影響があるはず。たった二週間のしかも半日の英語のレッスンでのレベルアップはごく僅かでも、この体験を基に海外への興味、英語の必要性などを実感し、将来、自分の人生の幅を広げて行くでしょう。先輩の残してくれた貴重な資産を広く友好的に使うことで、将来に繋がる息の長い事業、それが社会へ巣立つ若者を対象とするのであれば、まさに財団の目指す使命であり、当然公益性に資する最たる事業と言えると思感した次第です。



左から2番目が筆者

自分が源泉という考え方

シナジー・スペース 鈴木 博

寺子屋小山台は本年第5回目を開講しました。今回は初回よりプレ講座を担当していただき、塾生に多大の感銘を与えています鈴木先生に表題のご紹介をお願い致しました。



寺子屋小山台のプレセミナーで、参加者の方々に「自分が源泉」という考え方を分かち合う光栄な機会を頂いています。

私は、一年間にわたる中小企業の経営者研修を主催しています。この研修を通して、十六年間に、延べ千三百名を超える経営者の方たち、また、その社員の方たちと深い関わりを持ってきました。その経験の中から、経営者、社員の方たちが「自分が源泉」という立場をとることが、企業活動において、一番重要な「あり方」であり、ビジョンを実現し成果を創りだしていく出発点だと思っています。研修会後の参加者アンケート結果でもほとんどの方が、一番印象に残り、仕事、人生に役立つと思うと書いてくださるのも「自分が源泉」という考え方で

「自分が源泉」……国語辞典を引くと「源泉」とは「物事の始まり」と書いてあります。ですから、「自

分が源泉」とは、自分からすべての物事は始まっている、ということです。これを私は、「すべての結果は自分が創りだしている！という立場をとること」と、お伝えしています。とても自分が創りだしたとは思えないことも含めて、「すべてを自分が創っているとしたら…」という立場で結果と向き合ってください、結果を受けとめてくださいと提案させていただきます。

「自分が源泉」という考え方は、自分からすべてが始まっているという立場をとることなので、それが「良いこと」とか「悪いこと」という判断をすることとは違います。相手に話が伝わらなかったとしても、「自分が悪い」とか「相手がいけない」と言っているのでもありません。「良い、悪い」は別にして、ただ「自分が創ったという観点に立って」結果と向き合ってくださいという提案です。

ものごとを「自分が源泉」で捉えることのパワーはとてもシンプルです。それは、「自分が創った結果であれば、自分で創りかえることができる。」ということです。「自分が源泉」には結果に対する影響力とパワーを自分自身に戻す力があると信じています。6ヶ月にわたる、寺子屋小山台でのメンバーの方々同士の関わり、諸先生方とのふれあいの中で、「自分が源泉」が少しでもお役に立てば嬉しいです。

感謝を込めて。

自分を磨く時間

第18回英国語学研修派遣リーダー 小泉 千江



帰国して1週間後の解団式。団員が元気よく挨拶し私にちょっかきを出してくる。久しぶりに見る笑顔が、どこかすっきりしていて一人一人の成長を感じた。ようやく安心したのか、大粒の涙がこぼれた。この研修を通し、私はどれ

ほど笑い、考え、感動しただろう。

「チームワーク抜群のチームにしたい！」震える手でマイクを握りリーダーの決意表明をした4月。初対面で緊迫した会場に問いかけた。この派遣はなぜ、高校生と大学生混合の集団で行くのか、と。一呼吸を置いて思いを語った。若者時代真っ最中の私達が集うことに、一つの意義があるのだ、と。人は人によって磨かれる。内面を磨く経験は、感受性豊かなこの時期に非常に重要である。まさに本派遣は、人と向き合うことの連続。それがどういふもので、どれほどの精神力を要するかは、様々な価値観に考えを巡らせることで次第に理解していこう。その過程で、内面的な成長を実感してほしい。

言語に限らず生活習慣や食文化など、取り巻く環境が非日常的な日々。そこで挑戦した道のりや成果は、ステップアップする機会を与えてくれる。さらに、励まし合う同志がいることで、その可能性は最大限に広がる。これぞ本派遣の醍醐味である。私の思いは次第に共感を得て、団員同士での交流はより親密になった。とことん人と向き合うこと。それは自分を磨くことに通じている。これは社会に出る一歩手前の我々には重要な経験である。

帰国から2週間経たぬ間に、好んで3度は集まった私達。初日、背筋をピンとさせ、私のスピーチを黙々と聞いていた彼らだが、今は年齢や性別関係なく冗談を言い合う仲になった。「この絆、ずっと繋ぎ続けよう。」誰もが頷きにつこり笑う。それを見て、達成感でいっぱいになった。

寺子屋小山台22年度日程

開講期間 2010年8月～2011年2月
月1回(土曜日) 13時30分～17時頃

日 程	テ ー マ	講 師
プレ(8/28)	「受講生に望むもの」	福川伸次 様
々	「自分が源泉という在り方」	鈴木 博 様
第一回(9/11)	「リーダーシップ論」	小島章伸 様
第二回(10/2)	「国際貢献」	北野尚宏 様
第三回(10/30)	「経済トピックス」	大澤佳雄 様
第四回(11/20)	「環境論」	未定
第五回(12/11)	「米国から見た日本」	高成田亨 様
第六回(1/15)	「中国から見た日本」	朱 建榮 様
第七回(2/5)	未定	福川伸次 様
第八回(2/26)	まとめ	受講生全員

※テーマ、講師については変更の可能性あり



出でよ、 真の国際的リーダー

理事長 大澤 佳雄



多くのメディアは最近の経済の復調を「独り立ちできない外需頼みの日本経済」と、自己卑下をするような報道、論評している。日本経済が世界に展開することは果たして悪いことであろうか。欧米の経済モデルが示しているとおりに成熟経済はグローバルな展開を果たしてこそ世界の経済社会における存在意義があるといっても過言ではなく、孤立した国家経済を指向することは世界市民としての責任放棄になるといえるのではあるまいか。

一部の先端企業においては世界市場に事業の軸足を置いて、海外の消費者からも歓迎される商品やサービスを提供しているが、多くの政官界や国民個人を見ると、その意識は未だに要らぬ苦勞は避けたいとする「内向き」に留まっているといえよう。この現状を打破するためには個人が開かれた国際感覚を磨き、国際人としての責務を自覚する以外には道はなく、教育の抜本的な「国際化」が待たなしの課題として浮かび上がってくる。

財団法人小山台は高校生、大学生などを対象とした国際交流活動を通じて国際人の養成に注力してきたが、交流の輪も広がり所期の成果も徐々に挙がり始めている。全人格的な「文武両道」の教育方針をモットーとする小山台高校の若者の中から、国際社会からも熱い期待をもたれる日本の真のリーダーが生まれてくることを期待して已まない。

22年度 英国との交換交流事業 (関西旅行)

2010年8月9日～8月12日

今回、日本側は樋口舞さん、根岸佑太さん、清水彩那さんと小職合わせて4名でイギリスはブリットポートから7名、ミドルズブロウから4名合わせて11名を引率致しました。猛暑の中、奈良、京都、宮島、広島を3泊4日で周るスケジュールで、移動も多く、慣れない暑さで病気になるかと心配しましたが、皆体調を崩すことなく元気に有意義に過ごすことができました。

イギリスの学生の中には本格一眼レフカメラを持っている学生が数名おり、日本の伝統ある神社仏閣や趣ある風景を真剣に撮影していたのが印象的でした。撮った画像を皆に見せながら、これが綺麗とか面白いとかシェアしたり、歩き回ってベストポジションを探して撮ったりと、とてもアクティブな学生が多く、一箇所を見終えるのに予想の2倍以上の時間を要しました。奈良公園の鹿や燈花会、三十三間堂、厳島神社などどこへ行っても皆口々に「Amazing」と言って興奮していました。日本の伝統に興味を持ってくれたことは大変嬉しいことでした。

同じイギリス学生でも趣味趣向は若干異なり、食べ物のことについては少し苦戦しました。日本食に興味津々で味わう学生もいれば、一切口にしようしない学生もいて、追加オーダーで別メニュー対応しました。ただ全員一致で喜んでいただけたのは和洋中ビュッフェと「広島風お好み焼き」でした。

今回日本引率学生と共有していたミッションは「イギリスメンバー皆が楽しく、最高に満足できたと思ってもらえる関西旅行」でした。樋口さん、清水さん、根岸君はいつも連携し合い、イギリスメンバーに気を配ってくれました。スーパーでみんな1つずつ好きなアイスを選ん

でもらうようにしたり、様々なお菓子を小分けにしておやつ袋を作り各自に渡したり。そして日本食が食べられない子には別弁当を選ばせたりと、小さなところにも「みんなが」喜び、満足できる旅にするためにはどうすればいいかを一生懸命考え、行動してくれました。日本引率者にとっても関西は見知らぬ場所です。引率のための事前予習だけでなく、当日は互いに連携しあいながら柔軟に対応してくれました。

関西旅行で印象的だった場所としてメンバーのほとんどが「広島」と答えてくれました。広島祈念資料館・そして原爆ドームを見て、広島で起きた真実を知り、イギリスメンバーは互いに涙を溜めてハグし合っていました。私たち日本人にとって、広島での真実を知ってもらえたこと、そして互いに平和を祈念できたことは、紛れもなく未来の平和へ繋がる絆であると思えました。

(国際交流部副部長 飯島裕美子 記)



広島にて



ボンマス



ドイツ国



小山台デー 剣道



サヨナラパーティ

平成22年度 国際交流事業参加者

英国語学研修派遣団 (25名)

石 渡 けやき(女)	小山台高校全1年
筒 井 廉(男)	小山台高校全1年
宇 山 英 里(女)	小山台高校全1年
岡 村 優 里(女)	小山台高校全1年
内 田 万 紀(女)	小山台高校全1年
太 田 彩 香(女)	小山台高校全1年
用 貝 安加莉(女)	小山台高校全1年
小 野 翔 也(男)	小山台高校全1年
濱 川 菜 緒(女)	小山台高校全1年
井 上 悠一郎(男)	小山台高校全1年
萬 香 里(女)	小山台高校全1年
蘭 田 美 里(女)	小山台高校全1年
両 角 徹 郎(男)	小山台高校全1年

◎印リーダー ○印サブリーダー

高 松 洋 樹(男)	小山台高校全2年
森 岡 優(男)	小山台高校全2年
稲 田 裕 美(女)	小山台高校全2年
小野寺 瑠(女)	小山台高校全4年
○洗 川 春 花(女)	東洋大1年
上 脇 なつこ(女)	東京都市大1年
高 橋 寛(男)	中央大2年
山 川 貴 之(男)	上智大2年
○光 江 晴(男)	早稲田大2年
生 形 聡(男)	上智大2年
山 本 旅 音(男)	千葉大2年
◎小 泉 千 江(女)	専修大3年

ドイツ交換留学派遣団 (10名)

林 晴 子(女)	小山台高校全1年
深 津 功(男)	小山台高校全1年
中 田 光 輔(男)	小山台高校全1年
林 結 実(女)	小山台高校全1年
植 田 嶺(男)	小山台高校全1年

◎印リーダー ○印サブリーダー

川 戸 秀 晃(男)	小山台高校全1年
林 由 佳(女)	小山台高校全1年
○原 昇 平(男)	中央大2年
小 松 永太郎(男)	東京電機大2年
◎石 川 紗 織(女)	日本女子大3年

英国ブリットポート交換留学受入学生 (6名)

(受入学生)	(来日学生)
甲 斐 春 菜(女)	小山台高校全2年
森 近 舞(女)	小山台高校全2年
山 森 さつき(女)	小山台高校全2年
小 松 莊 子(女)	上智大2年
根 岸 佑 太(男)	国士舘大3年
末 続 麻 衣(女)	東京家政短大2年
	Fishlock Jade
	Brown Anna
	Guy Daisy
	Beaton Emily
	Rider-Dobson Jack
	Milree Caroline

英国ミドルズブロウ交換留学受入学生 (7名)

(受入学生)	★印は好意による受入	(来日学生)
小 俣 智 美(女)	小山台高校全2年	
西 牧 琴 音(女)	小山台高校全2年	
中 村 はるま(男)	大田桜台高校全2年	
白 井 萌 衣(女)	成城大4年	Fawcett Laura
大 嶺 俊 平(男)	横浜国立大4年	Craggs Andrew
樋 口 舞(女)	帝京大4年	
★佐 野 萌 子(女)	法政大1年	Ferguson Sarah

22年3月 (21年度) 学生台湾派遣団 (10名)

◎太 田 英 子(女)	早稲田大2年	◎印リーダー
加 藤 由香里(女)	法政大1年	◎印サブリーダー
○清 水 彩 那(女)	明治大1年	
松 尾 一 志(男)	慶応大1年	
小 泉 千 江(女)	専修大2年	
高 橋 理恵子(女)	明治大2年	
中 村 あゆみ(女)	学習院女子大2年	
佐々木 友里恵(女)	昭和大3年	
速 水 美喜子(女)	帝京大3年	
鷲 塚 浩 二(男)	獨協大3年	

期待に応える学校に

校長 山崎 茂



4月に小山台高校の校長として着任しました山崎と申します。財団の皆様には、様々な面でご支援をいただき、大変ありがたく思っております。

今年度の全日制、定時制の状況をお伝えしながら、4ヶ月過ぎて私の考えるところを少し記しておこうと思います。まず、全日制の進学状況ですが、国公立大学に45名（昨年度）、うち難関といわれる4大学（東大、京大、一橋大、東工大）に7名（昨年度3名）、難関私立大（早・慶・上智大）に58名（昨年度53名）と着実に実績を伸ばすことができました。現在、3年生は40講座以上の夏期講習を必死で受講しているところです。また、2年生は7月9日に、東京大学をはじめとした9国公立大学と早慶の11大学の見学に行ってきました。今後も高い志を失わず努力して欲しいと思っています。班活動については、昨年ベスト8と菅首相の誕生でスポーツ誌でも注目された野球班は残念ながら、4回戦で敗れました。また、多くの班活も3年生が最後の大会を終えました。全国大会や関東大会

出場といった結果はでませんでした。各班ともよく頑張ったと思います。ブラスバンド班やラグビー班はまだ3年生が残って頑張っています。また、合唱コンクールでは、上級生が力を示し、下級生に強い刺激を与えたようです。現在は運動会の準備が進められています。こうした班活動や行事にも小山台高校ならではの多くの方々の期待があるように思います。これらを維持・発展させながら、進学実績を伸ばしていくことが、皆様の期待に応えていくことなのだと私は考えています。財団の国際交流事業による海外派遣も、35名（定時制1名）の生徒が現在、イギリスとドイツに行っている最中です。先日、小山台デーがあり、11名の英国受入れ生徒にも会いました。こうした点でも小山台生は恵まれた環境にあり、これを生かしていかなければならないと思います。

定時制では、今年度4月に入ってから1年生の追加募集があり、2度にわたり会館をお借りして入学式を行いました。その結果、今年は1年生が71名と例年を大きく上回り、定時制全体の人数も180名以上となっています。定時制の生徒についても「生活習慣の改善」と「学力の向上」を目標に実施して

いる様々な取り組みに援助をいただいております。外国人生徒も増え、今年度も文科省の人権教育研究指定校および定通チャレンジ事業推進校として指定を受けました。定時制の生徒については、まずは学校に定着し全員が卒業してくれることを願っています。その点で、今年度は班活動への参加者が多く、活発な活動が行われているのは何よりだと考えています。

ところで、この4ヶ月で感じたことは、他の学校には無い様々な支援に生徒も教職員も慣れ過ぎてしまっていないかということです。何もなければもっと知恵をしぼり、考え工夫しなければならないところを安易に甘えてしまっていないか、もう一度考えて見なければいけないように思います。財団からの様々なご支援は、小山台高校に対する多くの方々の「期待」と受け止め、より有効な活用を常に工夫し、成果で応えていくことをもっと強く意識する必要がありますと考えています。

「様々なご支援に感謝し、工夫改善を重ね、より高い成果を求めて努力する。」

これが、私がしなければならない「敬愛・自主・力行」であり、これまで以上に皆様の期待に応えることのできる学校にしていきたいと考えていますので、今後とも小山台高校に対するご支援のほど、よろしく願いいたします。

平成21年度 事業報告

21年度は景気が最悪期から脱しつつあるといわれながら、先行き不透明な状況が続いていた。

当財団の保有する社債のうち21年度に償還を迎えたものは2億円で、買換えにより新たに取得した社債は、上記の経済状態下ではまずまずの1.7%の利回りを確保することができた。

また海外派遣参加者負担金は派遣費用が相対的に上昇していることから、負担金の引き上げを行った。これにより事業活動収入の総額は107百万円となった。

一方事業活動支出については、海外派遣に伴う航空運賃に燃油サーチャージの負担がなかったこと、空調機オーバーホール工事の次年度への繰延べを行なったこと等により総額で125百万円（予算130百万円）となった。この結果、投資活動収支を合わせた単年度の総合収支は▲15百万円（予算▲26百万円）となり、次期繰越金は106百万円となった。

1. 国際交流事業

①海外派遣・受入

イ. 英国語学研修派遣

高校生・大学生26名を3週間派遣し、ホームステイをしながらキングズカレッジに2週間語

学留学させた。

ロ. 英国ブリッドポート・ユースセンターとの交換留学派遣

高校生・大学生7名を3週間派遣し、ホームステイをしながらキャンプ、ピクニック等で交流を行った。

ハ. 英国ミドルズブローウ・カレッジとの交換留学派遣

高校生・大学生6名を3週間派遣し、ホームステイをしながらキャンプ、小旅行等で交流を行った。

ニ. ドイツベルリン市のカニジウス校との交換留学受入

学生10名及び引率者2名を3週間受入れ、キャンプ、小山台高校での班活体験、関西旅行等を行った。

ホ. 台湾への学生派遣

台湾の環球技術学院へ大学生10名を8日間派遣し、太陽エネルギー講習、モデルウオーキング講習、企業参観等に参加した。

ヘ. 台湾学生の受入

学生10名及び引率者2名が7日間来日した。日本の大学生が大学祭、浅草、お台場、東京タワー等を案内し交流した。

②海外研修助成

適正な他団体のアメリカ合衆国及びアジア地域

への海外研修派遣に参加した大学生8名に、助成を行った。

③外郭組織援助

海外派遣経験者の会（BRANCHの会）、受入家庭経験者の会（あけぼの会）の活動費を援助した。

2. 社会教育事業

①市民向け文化講座を目的として講演会5回、コンサート1回、歴史散歩1回の公開文化講座を行った。

②次世代を担うリーダー養成講座として「寺子屋小山台」を8回開催した。

3. 学校教育事業

①都立小山台高校への助成

小山台高校の教育活動として、講習教材費、運動会費、合唱コンクール費等の助成を行った。

②中学校向け事業への助成

小山台高校が近隣の中学校生徒に対して行った管・打楽器講習会、剣道講習会、テニス講習会等の費用の助成を行った。

③育英事業

都立高校生31名に奨学金を給付した。

平成22年度 事業計画

1. 国際交流事業

①海外派遣・受入

イ. 英国語学研修派遣

高校生・大学生25名を3週間派遣し、ホームステイをしながらキングズカレッジに2週間語学留学させる。

ロ. ドイツベルリン市のカニジウス校との交換留学派遣

高校生・大学生10名を3週間派遣し、ホームステイをしながらベルリン市内見学、ポツダムやドレスデンへの小旅行等を行い交流する。

ハ. 英国ブリッドポート・ユースセンターとの交換留学受入

学生7名と引率者を3週間受入れ、キャンプ、小山台高校での班活体験、関西旅行等を行う。

ニ. 英国ミドルズブローウ・カレッジとの交換留学派遣

学生3名と引率者を3週間受入れ、キャンプ、小山台高校での班活体験、関西旅行等を行う。

ホ. 台湾への学生派遣

台湾の環球技術学院へ大学生10名を8日間派遣し、太陽エネルギー講習、モデルウオーキング講習、企業参観等に参加させる。

ヘ. 台湾学生の受入

学生15名及び引率者2名が7日間来日、日本の大学生が大学祭、浅草、お台場、東京タワー等を案内し交流させる。

②海外研修助成

適正な他団体の海外研修派遣に参加する大学生に助成を行う。本年度より研修先の地域制限を原則廃止する。

③外郭組織援助

海外派遣経験者の会（BRANCHの会）、受入家庭経験者の会（あけぼの会）の活動費を援助する。

2. 社会教育事業

①市民向け文化講座を目的として講演会6回、コンサート1回、歴史散歩1回の公開文化講座を行う。

②次世代を担うリーダー養成講座として「寺子屋小山台」を9回開催する。

3. 学校教育事業

①都立小山台高校への助成

小山台高校の教育活動として、講習教材費、運動会費、合唱コンクール費等を助成する。

②中学校向け事業への助成

小山台高校が近隣の中学校生徒に対して行う管・打楽器講習会、剣道講習会、テニス講習会等の費用を助成する。

③育英事業

都立高校生に予算内で奨学金を給付する。

4. その他

①会議室・ホール等の施設の貸出

教育関係の会議・会合、文化教室、研究会等、社会公共のために使用する団体等に会議室・ホール等の施設を貸出する。

平成22年度も景気回復が遅れ金利上昇も見込めそうもないので収入は前年と同程度と考える。一方事業費予算は全事業を見直した上で重点配分を心掛けた。実施を計画している事業の概要は下記の通りである。

ドイツ交換留学

ドイツ派遣リーダー 石川 紗織



私たちドイツ派遣団は、ドイツの首都ベルリンでカニジウス高校の生徒と3週間の文化交流を行いました。現地のみなさんにより、様々なプログラムが用意されていましたが、このプログラムにおいて一番刺激の大きいことは、なんといっても「ホームステイ」であるということだと思います。ステイ先のファミリーは、日本語という言語にも、文化にも全く触れたことがない方がほとんどです。その中で団員は英語を使ってコミュニケーションをとっていかねばならないのです。最初はあまり会話が成り立たなかった団員もいたようです。しかしながらいろいろなプログラムを通してパートナーと仲良くなっていくうちに、だんだんと家族との会話も増えていったようです。帰国の日になると、泣いて別れを惜しむ団員もいました。これは言葉があまり通じない環境の中であってもパートナーとの間に、確かな友情が芽生えていたということだと思います。

団員は現地で、それぞれ課題を見つけました。一年後受け入れをする時までになっていたい自分になるべく、目標を立てて団員の話しあいで発表しました。単なる、ドイツに行った仲間だけでは終わらせない、これからもずっとお互いを刺激し合える一生の仲間になっていけたらと思っています。

今回の派遣を実施するにあたって、たくさんのOB・OGの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

交流活動を終えて（日本語版）

公關事務設計系 四年級 テリー（王名賜）

21歳になって初めての海外。大器晩成だ。21年待った時間も無駄ではなかった。初めて行く海外が、大好きな国の一つ日本だからだ。日本語も得意ではないし、大した経歴があるわけでもないが、環球技術学院の代表としてこの交流活動に参加できてうれしかった。準備期間を経て日本へ行って、台湾に戻るまで、いろいろな苦労があったが、私たちは一つ一つ解決してきた。我々も成長したと言えるだろう。

私にとって、今回この活動に参加した大きな目的は、国際観を養うことだった。でも他の人のいい面を見すぎたせいか、ちょっと悲観的になって、自信がなくなった。東京農業大学に始まって最後のドイツニーランドまで、これこそがプロだと思った。

もともといろいろなことに正しいか間違っているかはなく、文化も比較できるものではない。日本がちょっと好きで、20年も前から知っているところと、知ってから1週間も経たないところを比較しようとしているからこんな言い方になったのかもしれない。それは、まるで、知り合ったばかりの友だちのようで、何もかもが新鮮だったからだけかもしれない。最後に、どの国にしよう、何をしよう、日本人の心遣いとひたむきさ、台湾人の素直さと前向きさを、みんなに持ってほしいと思う。そうすれば、この先、どんな困難が待ち受けていても解決できないことはないと思う。

21年11月環球技術学院の学生の訪日報告を初めて日本語でいただきましたので、代表の王名賜さんの報告書の抜粋を掲載させていただきました。

サンクス・財団法人小山台

都立小山台高等学校 前校長 矢作 洋



財団法人小山台に関わる皆様には多大なご支援、ご協力を賜りありがとうございます。

小山台高校は本当に特別な学校です。高校と財団法人小山台を両軸として菊桜会、偲桜会、全・定のPTAが集い、生徒、教職員とともに小山台ファミリーを形成している感じます。

都立高校でありながら財団のご支援のおかげで、様々な大きな取り組みが実現しています。3週間にわたる海外派遣を筆頭に、年間を通しての学校行事や班活動に対する支援、進路指導・学力向上のための取り組み、学校PRや生徒の心の健康のためのカウンセラー指導、管打楽器講習会をはじめとする中学生のための講習会、大ホールを使用するバンド演奏会などなど、数え上げたらきりがありません。この財団の小山台高校に対する支援の大きさを聞いたら、みんな度肝を抜かれることでしょう。

金銭的な支援だけではなく、人的支援も大きいものがあります。入学式・卒業式における挨拶、学校運営連絡協議会委員、合唱コンクールや運動会への参加、野球班等への応援など、人的支援がどれほど心強いかわかりません。それにより生徒は持っている以上の力を発揮し、のびのびと思い切って活躍することができます。これほど学校と同窓の方との絆が深い学校はありません。

3年間という短い間でしたが、校長として楽しく充実した生活を送ることができました。深く感謝申し上げます。財団法人小山台に関わる皆様には、今後とも小山台高校をよろしく願いいたします。

平成22年度 新任役員・委員一覧

	新任	辞任
副理事長	山崎 茂	矢作 洋
国際交流事業部会委員	野田 由里 木村 美保子	中村 くるみ 大谷 あけみ 横山 彩
社会教育事業部会委員	金子 ヨシコ 小泉 智子	伊藤 正人 近藤 久美子
学校教育事業部会委員	伊藤 正人 熊久保 節子 石塚 純一 山本 美園	松丸 心一 山口 佳子 蔭山 小夜子 柏尾 裕二 真柴 昌彦
事務局長	松丸 心一	松本 功次

(新役員・新委員の任期は平成23年6月まで)

貸借対照表

〈資産の部〉		〈負債・正味財産の部〉	
科目	金額	科目	金額
流動資産合計	106,817	負債合計	2,980
預貯金	106,817	流動負債合計	616
固定資産合計	7,377,797	源泉税等預り金	616
基本財産合計	7,265,787	固定負債合計	2,364
有価証券	6,312,735	退職給付引当金	2,364
預貯金	28,014	正味財産合計	7,481,633
土地	652,150	基本財産	7,265,787
建物	272,887	その他の財産	215,846
その他の固定資産合計	112,010	事業拡大積立金	100,000
有価証券	100,000	その他	115,846
預貯金	2,364		
器具・備品	9,646		
資産合計	7,484,614	負債・正味財産合計	7,484,614

正味財産増減計算書

〈増加原因の部〉		〈減少原因の部〉	
科目	金額	科目	金額
基本財産運用収入	96,201	事業費	104,410
運用財産運用収入	1,355	管理費	20,478
負担金収入	7,090		
雑収入	2,120		
経常外収益	5,703		
合計	112,470	合計	124,889

当期正味財産増減額	△12,419
前期繰越正味財産額	7,494,052
期末正味財産合計額	7,481,633

平成22年度 公開文化講座のご案内

実施月	講師	内容
5月22日(土)	モンゴル共和国 日本商工会議会議長 ウ・ウルジ氏	「モンゴルと日本」 モンゴル出身のおお様さんはなぜ日本語がうまいのか
6月12日(土)	女流将棋棋士 北尾まどか氏	「将棋の世界」 勝負の世界とどうぶつ将棋の考案で将棋の普及を
7月 3日(土)	清水多江子氏	「ヨーガ体験」 ヨーガは初めて? 一緒にヨーガを
9月 4日(土)	トモ工算盤社長 藤本トモ工氏	「今またそろばんがブーム」 そろばん伝道士として
9月25日(土)	写真家 阿部昭三郎氏	「生きる」ことで野生動物から学ぶことがある
10月16日(土)	*手島宗太郎氏	「歴史散歩」 品川宿に土佐藩の痕跡と幕末の事件を探る
11月 6日(土)	三菱商事上席顧問 *工藤 章氏	「中南米の国々」 魅惑のラテンアメリカ
11月27日(土)	*大塚 修造氏	「レクチャー・コンサート」

(注) *は小山台高校卒業生
歴史散歩を除き、いずれも会場は小山台会館3階 午後2時開始、通常約2時間

編集後記

本年3月末をもって、事務局長の松本功次氏が退任された。次長時代から通算すると10年の長期にわたり、当財団を支えてこられた功績は筆舌に尽くしがたく、改めて敬意を表するものである。

特に国際交流事業の発展は、氏のご努力に負うところ大であり、英、独との交流は言うに及ばず、台湾との相互交流も順調に進められ好評を博している。氏の今後のご健康とご多幸を心よりお祈りしたい。なお、氏の後任には4月1日付で松丸心一氏（菊桜会20期）が就任した。

本年は記録的な猛暑で、あまり暑さに慣れていない英国の学生を関西旅行に連れて行って、熱中症になったりはしないかと随分心配であったが、飯島さんの報告にもあるとおり、皆さん元気にスケジュールをこなして、予定通り帰国した。

イギリス・ドイツ派遣団も無事帰国し解団式ではみな有意義な海外生活を過ごしていただいた様子で何よりであった。（常勤理事 杉山 元）